

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス けやきの森		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 26日		2024年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 26日		2024年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用している子ども達が事業所へ来る事を楽しみにしている。事業所だけでしか遊ぶ事が出来ない友人関係の構築が出来ている。学校の図工の時間では取り組めないような、自身が好きな物を形にする工作が行えている。各々が取り組みたい活動を中心に毎日の過ごし方を決定。やらされているのではなく、自分たちでやりたい事を決める事が出来ている。	一緒に活動に取り組める環境づくり。その時にやりたい活動が何なのかを子ども同士で相談して決める。やりたい事がバラバラでまとまりがない時は職員が間に入って多数決を取ってみたり、時間で区切って交代する等の助け船を出している。工作ではタブレットで画像を検索し、二次元の物から三次元の物を作る等、想像力を鍛える取り組みを行っている。	引き続き、子ども達が楽しんで通える環境作りを継続していく。必要に応じて新しくリリースされる物も積極的に取り入れて行く。職員も一緒に活動に参加し、内容を把握できるようにしていく。工作に必要な物がある時は一緒にホームセンターや100円ショップに行き、どんな工夫をしたら上手に行くかを一緒に考えていく。
2	避難訓練等、防災に対する取り組みが保護者の方々に周知されている。開業当初から避難訓練等を実施していたが、保護者の方々に周知不足だった様でやっているかどうかわからない。という回答をいただく事が多かった。毎月発行している会報で避難訓練を実施している事を周知する事で、近年はご理解をいただいている。	会報にて避難場所の掲示を行ったり、ブログで様子を公表している。目を通していただける保護者の方が増え、事業所の取り組みとしてご理解をいただいていると思う。年に一回のお出掛けで阿倍野区にある防災センターをカリキュラムに盛り込んでいる。震度7を体験する事で、感想を保護者の方と共有してより周知されている。	子ども達と一緒に訓練をするのはもちろんだが、職員が集まって研修をする時間も大切にしている。事業所の周りにはどんな建物があり、避難する事が出来るのか。周りにはどのような危険があるかハザードマップを目に付く場所に掲示し、いざと言う時に落ち着いて行動が出来る様に日頃から意識をしている。
3	毎月のお出掛け。子ども達のリクエストも聞きつつ、評判の良かった場所を中心にのお出掛けの場所を選んでいく。年に一度は保護者も同伴でユニバーサルスタジオジャパンへのお出掛けを実施。現時点で過去3回行っており、毎回好評を得ている。それ以外にも節分やハロウィン等のイベントも実施しており、季節の行事も大切にしている。	評判の良かったお出掛け先は毎年、同じ時期に行くように設定を行っている。写真を見返した時や思い出をさかのぼる時にすぐ見返す事が出来る。更に子ども達も去年の今頃と言う感じで覚えていてくれる事が多い。前回は出来なかった事が今年は出来た等、子ども達の成長を感じる事も出来ている。引き続き、時期は合わせて行きたい。	年齢が上がる事で今まで楽しめていたものが楽しめなくなる出来事もある。子ども達の反応を見て、あまり楽しめていない施設に関しては一度休んでみる事をしている。少し距離があったり、現地に行くのに時間がかかってしまう場所があった場合、子ども達のまた行きたいと言う気持ちを汲んでいけるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供達との交流があるものの、保護者の方々に周知が出来ていない。事業所内へ子どもを招く事等はしていない。児童館へ入って一緒に何か活動を行う。と言った事も特別はしていない。事業所の近くには公園が四か所程あり、それぞれの場所地元の子供達と一緒に遊ぶ機会を設けているが周知されていない。	事業所以外の子供達との関りも大切にしたいと考えているが、写真等の撮影となると許可取りが大変な為ブログにて公表するのが難しい。利用者の子供達は契約時に肖像権について確認を行っているため、写真を撮影するのは問題ない。事業所内の子供達の写真は保護者に各自送りやすい環境にはなっている。	ブログや会報にて地域の子供達とも一緒に遊んでいる様子を伝えられるようにしていきたい。ただ、地域の小学校に通っているご家庭が多いので、地域の子供達との関わりを求めている保護者の存在もあり。活動として認知はしてもらいたいが、ご希望にそぐわない事を大々的にやる必要があるかも検討していきたい。
2	職員の配置や専門性について周知が出来ていない。保育士や児童指導員として経験がある職員が常駐しているが、わからないという回答があった。子ども二人に対して職員が一人以上になるように配置をしている。送迎時、保護者と会話をする時間を設けているが、それを受け取ってもらおうのが少し難しいように感じられる。	ブログや会報での職員の紹介が出来ていない。事業所内で直接支援をしている職員が保護者と接する機会が少なく、存在を感じるのが難しいのではないかと考える。送迎で行く職員は同じ場所に行く事が多く、固定化されている。顔なじみになる事でメリットもあるが、満遍なく関わる事が難しくなっている可能性がある。	職員の希望もあるので、送迎の担当の交代は難しい部分がある。職員の配置が十分であることを認知してもらえる様にブログや会報を活用していきたい。日頃から職員は子ども達と関わりを持っているので、ご自宅で子ども達が話をしたくなるような環境を作っていけるようにも心掛けていきたいと思う。
3	バリアフリー化が一部出来ていない。事業所は最初から放課後等デイサービスの為の造りではなかった。以前は整骨院と言う事で、その名残が残っている。玄関には車いす用のスロープはあるものの、トイレ前には段差が残っている。現時点では自立歩行が難しい利用者がいない為、バリアフリー化は検討保留中となっている。	マットレスを敷く等の対応をしているので、大きな怪我に発着するような事故は起こっていない。トイレ前の段差もつまずく利用者がいない為、現時点では経過を見守っていききたい。今後、よくつまずく等のトラブルが発生した時は段差にスロープを入れる等、動線が確保できるように対応していきたいと思う。	建物の構造上、トイレ部分が少し高く設計をされている。その為、段差が生じてしまっている。現時点で職員も含め、段差でつまずいてしまう人がいないので検討保留中になっている。子ども達もトイレ前でおふざけする事はなく、並んで待つことが出来ているので、今ある環境でどう過ごすかも考えていきたい。